



プレスリリース

令和 3 年 6 月 25 日
内 閣 府
科学技術・イノベーション推進事務局

地域バイオコミュニティの形成に係る選定結果の公表について

この度、内閣府において、地域バイオコミュニティの形成について公募・審査を行いましたので、選定結果を公表します。

1. 趣旨・目的

内閣府では、「バイオ戦略」に基づき、バイオ関連市場の拡大に向けて、国内外から人材・投資を呼び込み、各市場領域における製品・サービスの提供体制を強化し、世界市場に進出するための方策として、「バイオコミュニティの形成」を進めています。今般、「バイオコミュニティ推進委員会」において審査を実施し、地域に応じた特色あるバイオ分野の取組を展開する「地域バイオコミュニティ」の認定とともに、認定されなかったものの、今後の成長が期待される「育成バイオコミュニティ」の登録を行いました。認定を受けた地域に対し、関係各省とも連携しつつ、施策をパッケージとして総動員することにより、成長を強力に支援してまいります。

2. 選定結果

地域バイオコミュニティ（認定）：
○北海道プライムバイオコミュニティ
○鶴岡バイオコミュニティ
○長岡バイオコミュニティ
○福岡バイオコミュニティ

育成バイオコミュニティ（登録）：
○東海バイオコミュニティ

参考URL：<https://www8.cao.go.jp/cstp/bio/index.html>

<本件問合せ先>

内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局

重要課題（バイオ）担当 宇井、大野、金子、日比

電話：03-6910-2049（直通）

<各バイオコミュニティ問合せ先>

地域バイオコミュニティ（認定）：

○北海道プライムバイオコミュニティ

北海道³連絡会（Hokkaido Cubix：ホッカイドウ キュービックス）

電話：011-706-9193

○鶴岡バイオコミュニティ

一般社団法人鶴岡サイエンスパーク

電話：0235-29-0534

○長岡バイオコミュニティ

長岡バイオエコノミーコンソーシアム

電話：0258-39-2402

○福岡バイオコミュニティ

福岡県バイオ産業拠点推進会議（事務局：久留米リサーチ・パーク）

電話：0942-37-6124

育成バイオコミュニティ（登録）：

○東海バイオコミュニティ

東海バイオコミュニティ振興機構（仮称）設立準備室

電話：052-789-4168

「バイオ戦略フォローアップ」(2021年6月決定)のポイント

- ◆ 全体目標として「2030年に世界最先端の**バイオエコノミー社会**を実現」するため、我が国の強みを活かしつつ**市場領域**を拡大
- ◆ **気候変動問題**への対応の更なる加速や**ワクチン・治療薬**等の開発競争の激化など情勢変化を踏まえ、**戦略の実行構想**を示すべく、これまでの戦略をブラッシュアップした「**バイオ戦略フォローアップ**」を策定

バイオ関連市場の拡大

2030年時点で**総額92兆円**の市場規模を目指し、**市場領域施策**を推進

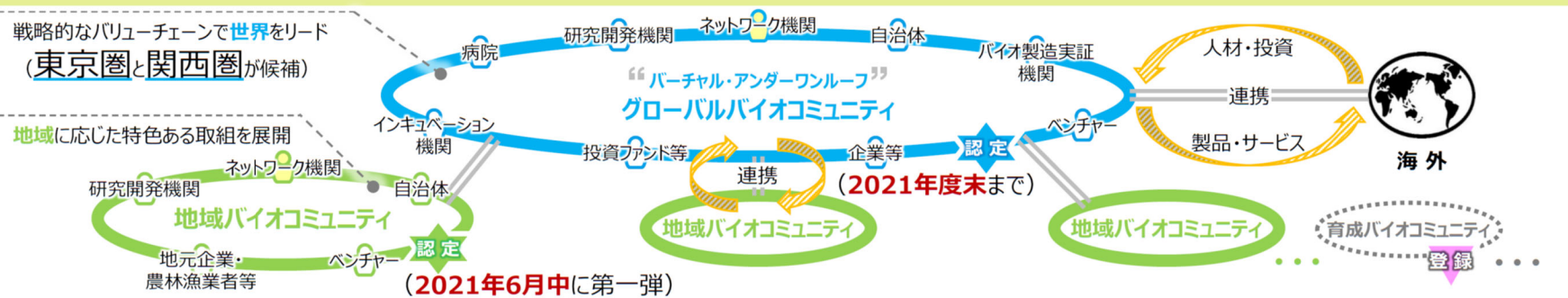
※1 2025年 ※2 市場規模は公的保険外ヘルスケアサービス



バイオコミュニティの形成

人材・投資を呼び込み、市場に製品・サービスを提供する体制

全国に**コミュニティ群**を形成し、成長を支援することで、**バリューチェーン**を構築



データ基盤の整備

研究開発・事業化に必要なデータ基盤

幅広く、柔軟な**データ連携**を可能とする環境を構築

バイオものづくり支援
プラットフォーム

土壌関連
データ

スマート育種
プラットフォーム

食・マイクロ
バイオーム・健康
情報データ

ゲノム・データ



バイオデータの連携・利活用に関するガイドライン (仮称)

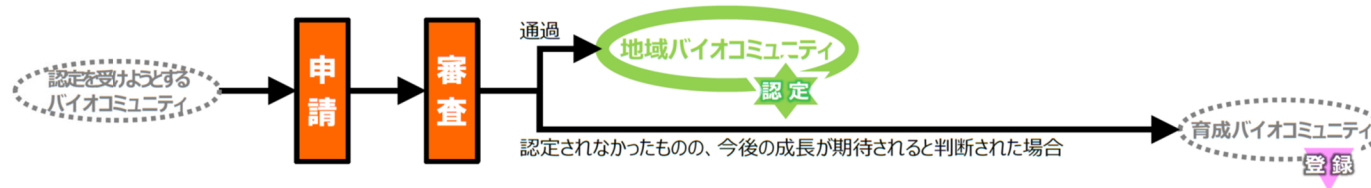
バイオコミュニティの形成について

【グローバルバイオコミュニティ】

- 研究開発から事業化までに多様な主体が関わる**戦略的なバリューチェーン**を構築し、**世界**をリード
- **東京圏**と**関西圏**が候補
- **2021年度末**までに公募・認定

【地域バイオコミュニティ】

- **地域**に応じた**特色ある取組**を展開
- **幅広い地域**からの積極的な参入を想定
- **2021年6月中**に第一弾を認定、原則として**毎年度**公募
- 認定されなかったものの、**今後の成長が期待**されると判断された場合には、**育成枠**に登録可能



令和2年度「地域バイオコミュニティの形成」選定結果

- 2021年3月31日～4月30日に地域バイオコミュニティの第一弾の公募を実施
- 書面審査及び面接審査を行い、**4件の地域バイオコミュニティの認定**と**1件の育成バイオコミュニティの登録**を決定

	バイオコミュニティ名	取組概要	対象市場領域								
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
認定	北海道プライムバイオコミュニティ 北大、北海道、北海道科技総合振興センター等	一次産業のスマート化による労働生産性の向上や、環境に配慮した生産技術の研究・事業化、北海道バイオブランドの確立を図り、誰もが農林水産業に従事したくなる地域を目指す			●						●
認定	鶴岡バイオコミュニティ 鶴岡サイエンスパーク／慶大、鶴岡市、スパイバー 等	鶴岡サイエンスパークにおけるバイオ系先端研究機関、教育機関、バイオベンチャー等の多様な機能を活用し、医療や環境など社会的課題への対応や地域の雇用拡大を目指す	●				●	●	●	●	
認定	長岡バイオコミュニティ 長岡市、長岡技科大、長岡高専、JA 等	コメや未利用バイオ資源のバリューチェーンを構築し、既存のバイオ産業とものづくり産業の融合による新産業の創出を図り、地域資源循環の促進・高度化を通じた循環型社会を実現			●	●			●	●	
登録	東海バイオコミュニティ 名大、岐阜大、三重大、愛知県、岐阜県、三重県、農林中金 等	ネットワーク機関の法人化を通じた体制強化により課題からのバックキャストを進め、無給餌養殖、森林ビジネス、バイオマスプラスチック、作物市場創生、スマート農業といったテーマごとに産学官のプラットフォームを設定し、研究開発や社会実装の一体的な推進を目指す	●	●	●						●
認定	福岡バイオコミュニティ 福岡県、久留米市、九大、久留米大、ボナック 等	久留米市を中心としたバイオ産業拠点化に取り組む中で、創薬・医療、食品、スマートセルといった強みを生かし、社会的課題の解決に資する技術シーズを早期に実用化するエコシステムを構築			●		●	●	●		

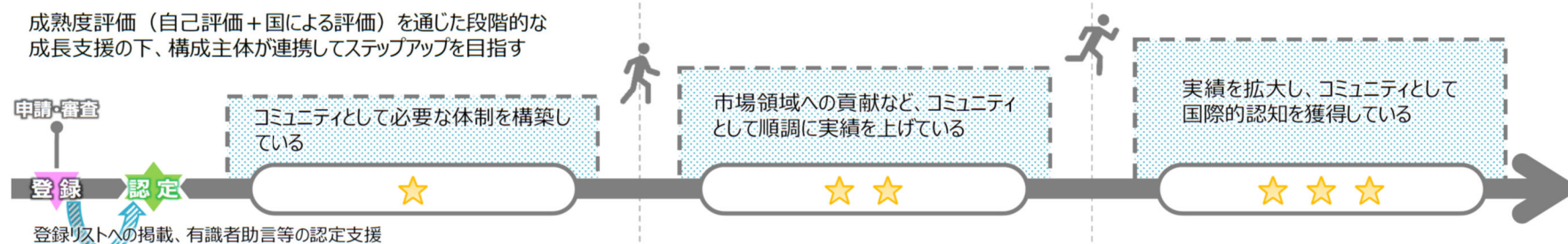
【参考】 9つの市場領域

①高機能バイオ素材、②バイオプラスチック、③持続的一次生産システム、④有機廃棄物・有機排水処理、⑤生活習慣改善ヘルスケア、機能性食品、デジタルヘルス、⑥バイオ医療・再生医療・細胞治療・遺伝子治療関連産業、⑦バイオ生産システム、⑧バイオ関連分析・測定・実験システム、⑨木材活用大型建築・スマート林業

認定を活用した(地域)バイオコミュニティの成長イメージ

- バイオコミュニティが適切に機能するためには、単なる認定だけではなく、**拠点としての役割を果たせるようにする仕組みの構築が必要**
- このため、①コミュニティの活動に集中的に取り組める体制を整備する観点から、**認定要件を設定するとともに、②認定を受けた地域に対し、施策をパッケージとして総動員することにより、成長を強力に支援**

成熟度評価（自己評価＋国による評価）を通じた段階的な成長支援の下、構成主体が連携してステップアップを目指す



①「コミュニティが備えるべき要素」としての認定要件

② 認定を受けた地域に対する施策パッケージ

地域バイオコミュニティの要件

世界で通用しうる「強み」

主要な主体(研究開発機関、地元企業・農林漁業者、自治体等)とキーパーソン

調整・連携機能等を担うネットワーク機関

あるべき姿と具体的な実施計画

- ・ポテンシャルや成熟度の測定のためのデータ・指標等を提出
- ・データの共有・利活用を促進する仕組みの整備を図る

■国とコミュニティとの意見交換、中央における全体のコミュニティ化

→ 各種支援や規制の在り方等に関するコミュニティのニーズを国が一元的に収集・把握し、ボトルネックを解消

■コミュニティに資する国の各種施策の最適な活用

(例) 産学連携拠点の形成(共創の場形成支援)【文】、バイオ製造実証機関の整備【経】、アグリバイオ拠点の構築【農】、バイオマス産業都市【農】、「知」の集積と活用の場【農】、地域循環共生圏の形成【環】、スタートアップ・エコシステム拠点都市【科技】、スマートシティの展開【科技】
→ 関係府省庁が連携して支援し、基盤整備や人材育成を更に促進。新規施策と国の戦略との接続を強化

■認定ロゴマークの使用権付与、コミュニティの成熟度の評価、国等による国内外への情報発信

→ コミュニティの活動を見える化・ブランド化し、人材・投資の呼び込みや市場領域の拡大を促進

■適切なタイミングでの研究成果の開示の条件化など、研究アイデアを個別に共有する仕組みの検討

→ 研究の初期段階から産学連携を活性化し、研究シーズの事業化を更に促進

■コミュニティにおける効果的な水平分業の促進(CMOやCDMO等の活用)

→ 事業創出拠点としての機能を強化し、一気通貫した製品・サービスのバリューチェーンを構築

【参考】 バイオコミュニティの認定ロゴマーク

- バイオコミュニティについては、専用の**認定ロゴマークを設定**することで、国として活動の**ブランド化**を後押し
- ロゴマークは、「10年使える」・「シンプル」・「流行に左右されない」を前提に、「**多様性の集約と連携、成長のイメージを表現**」というコンセプトの下、バイオ戦略有識者による議論を経て決定
- 2021年に6月に認定される**地域バイオコミュニティの第一弾から**使用権の付与を開始する予定

> グローバルバイオコミュニティ

Global



> 地域バイオコミュニティ

地域



- 「**多様性**」を4色（バイオエコノミーが拓く「4つの社会像」に対応）の色味で表現
- 「**集約と連携**」をドットの集まりで表現
- 「**成長**」をドットが集まり「B」を形成していく過程で表現

バイオコミュニティ推進委員会 構成員名簿

	池野 文昭	MedVenture Partners 取締役 CMO
主 査	上山 隆大	総合科学技術・イノベーション会議議員
	菅 裕明	東京大学大学院理学系研究科教授、 ミラバイオロジクス株式会社取締役
	藤田 朋宏	株式会社ちとせ研究所代表取締役 CEO、 京都大学特任教授
主査代理	山崎 達美	公益財団法人実験動物中央研究所理事、 東北大学ベンチャーパートナーズ株式会社社外取締役
	吉澤 尚	弁護士法人漆間総合法律事務所副所長、 弁護士・弁理士
	吉村 隆	一般社団法人日本経済団体連合会産業技術本部長